

表.日本リハビリテーション医学会としての震災後の対応の経過(2011年4月20日現在)

月日	おもな活動内容
3月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対策本部を立ち上げ(本部長:里宇理事長)</li> </ul>
3月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>未明に評議員・専門医宛に安否・被災状況確認メールを発信</li> </ul>
3月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応ワーキンググループ(WG)発足(住田監事、佐浦理事、菅理事、田中近畿地方会代表幹事)</li> <li>吉永理事に常任理事代行を委嘱。役員会で、震災への対応、学会通常業務の遂行体制を確認。</li> <li>リハビリテーション関連5団体(理学療法士協会、作業療法士協会、言語聴覚士協会、リハビリテーション病院施設協会)に連携を要請。</li> </ul>
3月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応WGより当面の対応について提言</li> </ul>
3月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北大学 上月常任理事と現地の状況、当面のニーズについて情報交換。</li> <li>安否・被災状況確認メールへの返信状況を整理。</li> <li>理事長メッセージを会員にメルマガで発信。</li> </ul>
3月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>東北大学より仙台市内の急性期病院入院中のリハビリテーション科患者受け入れの要請あり。各地方会に受け入れ可能施設とサポートスタッフのリストアップを要請、リハビリテーション病院施設協会にも協力を要請。移送手段について宮城県と交渉し、大型バスを確保。</li> <li>東北大学で被災地への医療キャラバン隊がスタート。リハ医2名も同行。</li> <li>震災後のリハ支援、生活支援を多職種協働で行う「生活機能対応専門職チーム」が発足(リハ医学会、PT協会、OT協会、ST協会、介護福祉士会、介護支援専門員協会、精神保健福祉士協会、医療社会事業協会、臨床心理士会、心理臨床学会、カウンセリング学会、トラウマスティックストレス学会、全社協、事務局:長寿医療研究センター)。</li> <li>報道関係3社と情報交換。</li> </ol>
3月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北大学への緊急物資支援について各地方会に要請。</li> <li>東北大リハ科はgeneralistとしての医療提供に注力。</li> <li>厚生労働省保険局医療課長、介護保険課長、医政局指導課にこれまでの学会の取り組みを報告し、今後、必要になると予想されるリハ医学・医療の観点からの支援について提言。</li> </ul>
3月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応WG-2開催、情報センター設置等について提言。</li> <li>専門医会に、災害急性期にリハとして現場で実行可能なこと、行うべきことの指針の作成を要請。</li> </ul>
3月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応WG開催、当面の対応について提言。</li> <li>現地での診療支援および物資の支援について、会員にメルマガで発信。</li> <li>報道関係者と情報交換。</li> </ul>
3月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省保険局医療課、介護保健課に、全国各地に移動する被災者に対する、1)リハ専門職による検診・廃用予防対応、2)集中リハが必要な被災者のスクリーニングと回復期リハ病棟等での受け入れ、3)避難先で必要とされている補装具・介護福祉機器の調査・調達、の必要性を提言。</li> <li>厚生労働省保険局医療課、介護保健課に、大震災時における口腔ケアの重要性を提言し、神戸常磐短期大学口腔保健学科足立平先生作成のパンフレットを送付。</li> <li>PT協会、OT協会、ST協会に上記活動における連携を提案。</li> <li>報道関係者と情報交換。</li> <li>リハビリテーション医学会震災関連情報センターを立ち上げ(川崎医大 椿原理事、鹿児島大学 川平理事、池田先生、システム・広報委員会担当 菅先生、全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会副会長 園田先生)。情報収集、管理、発信を一元化。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報センターより情報発信。</li> <li>・ リハ患者受入れ病院リストを会員ページに掲載(57施設)。</li> </ul>
3月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生活機能対応専門職チーム」にこれまでのリハビリテーション医学会の活動内容・経過を報告。</li> <li>・ 各地域における被災者受入れに関し、各地方会に情報収集、対応体制の検討を要請。専門医会に検診用のチェックリストの作成と指導・教育に活用可能なパンフレット等の収集を要請。</li> <li>・ 大震災が学会各種委員会、専門医会、地方会等の業務に与える影響を調査。</li> <li>・ 情報センターより情報発信。</li> </ul>
3月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員掲示版「支援要請／支援します」コーナーを開設(被災地現地の会員と全国の会員とのマッチング用)。</li> <li>・ 義肢装具学会に連携を要請。義肢協会・日本理学療法機器工業会の関連情報を収集。</li> <li>・ 情報センターより情報発信。</li> </ul>
3月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学会ホームページに「東北地方太平洋沖地震リハ支援関連情報」サイトを立ち上げ。</li> <li>・ 厚生労働省保険局介護保健課と情報交換。</li> <li>・ 「生活機能対応専門職チーム」による現地活動への第一次派遣者を決定。</li> <li>・ 東京都および埼玉県における被災者受入れ状況について情報収集。</li> <li>・ 日本医療社会事業協会災害対策本部と情報交換。</li> <li>・ リハ患者受入れ病院リストを会員ページに掲載(91施設)。</li> <li>・ 情報センターより情報発信。</li> </ul>
3月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学会としての活動の経過報告を学会ホームページに掲載、会員にメルマガで配信。</li> <li>・ 「被災地現場で奮闘するリハ医・リハスタッフへー専門医会からのメッセージ」を発信。</li> <li>・ 「被災者検診チェックリスト」を専門医会より発信。</li> </ul>
3月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報道関係者と情報交換</li> <li>・ 厚労省医政局指導課からの「転院希望患者受入れ窓口情報」についての問い合わせに回答(回復期リハ病棟等を中心に現時点で受け入れ可能100施設のリストあり、窓口は学会事務局)。</li> <li>・ 臨時常任理事会</li> </ul>
3月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハ関連五団体の地震災害に対する緊急会議-1開催。五団体が連携して中長期的な視野に立ち、広域的な支援を展開していくことを確認。</li> <li>・ 日本医療社会事業協会に転院患者受入れの相談窓口をお願いすることで合意。</li> <li>・ 日本せきずい基金から医師派遣要請あり。</li> <li>・ 情報センターより情報発信。</li> </ul>
3月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災対応WG-3開催。被災地と支援希望会員とのマッチング窓口の必要性について提言。</li> </ul>
3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生活機能対応専門職チーム」用物資の調達。</li> </ul>
4月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生活機能対応専門職チーム」第一陣の結団式、研修会開催。</li> </ul>
4月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生活機能対応専門職チーム」第一陣派遣(4月3日～10日、仙台市若林区)。</li> </ul>
4月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本せきずい基金からの医師派遣要請: 第一陣が出発。</li> </ul>
4月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 転院患者受入れの相談窓口(日本医療社会事業協会)の具体化について相談。</li> </ul>
4月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハ関連五団体の地震災害に対する緊急会議-2開催。統一の事務局・窓口を設け、中長期的な視点で対応にあたることで合意。</li> <li>・ 義肢装具学会と連携して対応に当たることで合意。</li> </ul>
4月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本せきずい基金幹部と今後の支援方針について協議。会員向け募集要綱作成。</li> <li>・ 埼玉県に移動した被災者への支援について関東地方会幹事長と協議。</li> </ul>

4月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>せきずい基金「被災脊損者救援活動への派遣医師募集」を学会HPに掲載。</li> <li>「生活機能対応専門職チーム」第一陣より、大きな余震を受けての避難所および活動状況の変化について報告あり。現地および常任理事と対応を協議。</li> </ul>
4月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨時役員会開催。震災後の対応の経過、震災関連予算、震災対応活動のための募金について審議。</li> </ul>
4月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応WG-4開催。窓口・調整機能の設置、現地ニーズの調査、支援の組織化について提言。</li> </ul>
4月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>せきずい基金「被災脊損者救援活動」への第二陣派遣医師を決定。</li> </ul>
4月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回東日本大震災宮城県リハビリテーション支援会議開催(於東北大学)。</li> </ul>
4月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハ関連五団体(10団体)の地震災害に対する緊急会議-3開催。共通の事務局を設置。五団体を拡大して全10団体で連携して対応することで合意(リハ医学会、PT協会、OT協会、ST協会、リハ病院・施設協会、回復期リハ病棟連絡協議会、老人デイ・ケア連絡協議会、訪問リハ研究会、地域リハ支援事業連絡協議会、介護支援専門員協会)。</li> </ul>
4月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報センターより「厚労省障害者等福祉用具支援本部発足のお知らせ」を発信</li> <li>当初の目的を果たし、せきずい基金「被災脊損者救援活動」を一旦終了。</li> </ul>
4月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハ関連五団体(10団体)の地震災害に対する緊急会議-4開催。合同事務局発足。</li> </ul>
4月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活機能対応専門職チーム」会議。</li> </ul>